

令和元年度 第2回志布志市総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和2年2月17日(月)
開会 午後1時30分 閉会 午後1時49分

2 場 所 志布志市役所 本庁2階 庁議室

3 報 告

(1) 志布志市教育大綱の改定について

4 協 議

5 出席者 (出席構成員)

志布志市長 下平晴行
教育長 和田幸一郎
教育委員 松原治美
教育委員 島津陽亮
教育委員 津町千代子
教育委員 益田裕子

(事務局)

副市長	武石裕二
総務課長	山田勝大
総務課長補佐	黒石直也
教育総務課長	徳田弘美
学校教育課長	谷口源太郎
生涯学習課長	萩迫和彦
教育総務課長補佐	坂元正知

5 会議の経過

午後1時30分 開会

○ 開会

【黒石総務課長補佐】 皆様、御起立ください。

ただいまから、令和元年度第2回志布志市総合教育会議を開催い

たします。よろしくお願いいたします。御着席ください。

本日は、御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、下平晴行市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長あいさつ

【下平市長】 本日は、ご多忙中にもかかわらず、令和元年度第2回志布志市総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には日頃から教育行政の推進につきまして、格別なるご理解とご協力を頂いておりますことを、改めて厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり、この「総合教育会議」は、首長と教育委員会が、お互いの連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために定められたものであります。また、総合的な教育の運営方針、重点的に講ずべき施策等について、この会議の中で教育大綱を定め、協議・決定することにより、本市における教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たるものであります。

本日は、この教育大綱の策定について、ご協議いただくことになっております。今回の教育大綱は、第2次志布志市総合振興計画の将来都市像を踏まえること、この度策定される第2次志布志市教育振興基本計画に基づくこと、個性を伸ばす教育及び家庭教育の重要性の観点等を盛り込み策定いたしました。

皆様方のご意見を頂きまして、十分に意見交換を行い、実りある総合教育会議にしていただきます事をお願い申し上げまして、私の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第3 報告に入りたいと思います。

まず、「(1)志布志市教育大綱の改定について」の報告をお願いします。

【坂元教育総務課長補佐】 それでは、報告(1)志布志市教育大綱の改定について、ご説明いたします。配布しております教育大綱案をご覧ください。表紙につきましては、令和元年度から使用しています志布志市ブランドロゴマークでございます。

1 ページ目の「はじめに」でございますが、先ほど市長のあいさつもありましたように、今回は4つの取組の視点で作成したところでございます。そのような市長の思いを含めて作成しましたので、読み上げて説明いたします。

本市においては、平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正以降、市長が総合教育会議を設置するとともに、教育委員会との議論の中で教育に関する『大綱』や重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行うことにより、両者が本市における教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たってきました。

また、平成29年3月には「第2次志布志市総合振興計画」を策定し、第1次計画に引き続き「志あふれるまち」をまちづくりの基本理念とし、将来都市像を「未来へ躍動する創造都市 志布志」と決めました。

私も市政推進における政治理念として「市民目線で市民が主役のまちづくり」を掲げ、「市民生活の利便性の向上」の実現に向けて、施策の展開を進めるとともに、市政運営に取り組んでまいりました。

教育行政につきましては、個性を生かす教育を充実させるとともに、郷土の持つすばらしい伝統や人情味あふれる教育的風土を生かし、心の豊かさと学ぶ意欲にあふれ未来を担う市民づくりを目指して教育・文化の振興を図っております。

個性を生かす教育とは、個人の価値を尊重し、その能力を最大限に引き出し、一人一人の可能性を最大限に伸張することだと考えます。

未来を担う市民づくりには家庭教育が重要であります。家庭は、個々人の健やかな育ちと生活の基盤であり、まちづくりの礎であり、家庭教育は、すべての教育の出発点であります。しかしながら、近年は地域とのつながりの希薄化や、親が身近な人から子育てを学んだり助け合う機会の減少など、子育てや家庭教育を支える環境は大

大きく変化し、家庭教育を行う上での課題が多く指摘されています。

本市では、地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、教育委員会と市長部局間、関係機関・関係者の間で、情報の共有化や協働の促進を図り、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりに努めます。

地域が人づくりに関わり、人づくりがまちづくりへとつながるとき、本市は志あふれ未来へ躍動する創造都市となります。

今回、総合教育会議において教育委員会と協議・調整を行い、第2次志布志市教育振興基本計画の基本目標等計画の骨子をもって教育大綱とすることとしました。

これを機に、引き続き、今後も教育関係者及び市民の皆様と一丸となり、より良き本市の教育の方向性を見出せるよう取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

以上が「はじめに」でございます。

先ほどのあいさつにもありましたとおり、今回は4つの観点を盛り込んでおります。1つは第2次志布志市総合振興計画に基づくものであること、もう1つは個性を生かす教育を充実させるということ、もう1つは家庭教育が重要であること、4つ目が第2次志布志市教育振興基本計画の骨子に基づくものであることです。1ページに教育大綱が掲載されております。上の方から総合振興計画の将来都市像である「未来へ躍動する創造都市 志布志、さらに輝くひと・まち・みなど・ふるさとを目指して」を掲げています。教育大綱の基本目標としまして「夢や希望を実現し未来を担う心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまちづくり」とし、目指す人間像を「1 知・徳・体・食の調和がとれ、主体的に考え粘り強く行動する力を備え、生涯にわたって志を持って意欲的に自己実現を目指す人間の育成」、「2 郷土に誇りを持ち、社会・郷土の一員として、志高く社会づくり・まちづくりに貢献できる人間の育成」としました。Ⅱの基本方針ですが、取組、施策推進の視点として4つ掲げています。(1)時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重、(2)社会の変化に対応し、夢や希望を実現する能力の育成、(3)学校・家庭・地域等の積極的な連携・協力、(4)郷土志布志の教育的な伝統や風土

の活用と未来への継承の4つの視点を踏まえ、施策の方向性を整理しました。「1 お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」、「2 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進」、「3 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進」、「4 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進」、「5 生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の推進」の基本方針については、第2次志布志市教育振興基本計画に掲げてあります基本目標に基づき教育大綱としています。

2 ページの施策の方向性ですが、5つの方向性を具体的に掲載しています。こちらの方はお目通しください。

3 ページですが、教育大綱の計画期間としましては第2次志布志市教育振興基本計画と整合性を図るため、令和2年度から令和6年度までの5か年となっています。その下に市民憲章を掲載しています。以上が教育大綱の内容です。

【黒石総務課長補佐】 続きます、会次第4 協議に入りたいと思います。協議の進行については、総合教育会議設置要領第4条第4項の規定に基づき、市長が務めるようになっていきますので、下平市長よろしくお願いいいたします。

【下平市長】 協議につきましては、先ほど報告されました議題について行いたいと思います。

それでは、まず、(1)志布志市教育大綱の改定について、ご意見、ご質問はありませんか。

【松原教育委員】 教育大綱を確認させていただいて、教育振興基本計画と整合性を図っていることがわかりました。前回の教育大綱は大綱というよりも思いの方が強いものだと感じていました。今回はいろいろな分野までや基本的にどう考えるかなどきちんと整っているものになったと思います。これまでも市長部局との擦り合わせの中で教育振興基本計画に対して市長の思いというものを取り込まれているのかなと読み取ったところでした。よくまとまっていると思

います。

【下平市長】 何か加えた方が良いというものはないですか。

【松原教育委員】 市長の思いの中でこの言葉は入れておきたいというものがありましたか。

【下平市長】 「個性を伸ばす」、「家庭教育」ですね。これは基本だと思っています。現在保護司をやりながらも感じるのは家庭が一番ということです。家庭で子供たちは作られていくと感じます。家庭教育と持っている個性をどう伸ばせるのかについては私の強い思いがあり、大綱に入れました。

【坂元教育総務課長補佐】 お手元に教育振興基本計画があると思いますが、12 ページに10年後を見据えた志布志の教育の姿を掲載しています。おおむね12 ページから17 ページまでにかけての内容が計画の骨子で教育大綱案として進めてきたところです。

17 ページには本市教育施策の方向性を掲載しています。先ほど説明しました5つの方向性について整理しています。教育委員会の方で策定を進めてきていましたが、今回教育大綱を策定する中で市長の思いを伺い、1 お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」について、基本計画では「困難に直面したときに諦めずに努力すること」としていますが、教育大綱の2 ページでは「個性の伸長や困難に直面したときに諦めずに努力すること」と改めています。また、「4 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進」については、大綱には「家庭教育は教育の原点であり、地域はその家庭を支える大きな役割を担っています。」を追加して、市長の思いを明確に記した上で教育大綱として策定したところです。

【和田教育長】 今回の教育大綱を作るにあたって他の市がどのような教育大綱を策定しているのか資料を集めてもらいました。志布志市の教育

大綱は、理念が前面に出ていて具体的な施策の中身が触れられていないものでした。他市は基本計画の方針などを盛り込んだ形で教育大綱を策定していましたので、それが妥当と判断して策定したところです。その中に市長の思いを入れ込んだ形になりましたので分かりやすい教育大綱になったと思います。

【下平市長】 皆さんにお諮りします。お示ししました志布志市教育大綱(案)を大綱と定めてよろしいでしょうか。

委員から はいの声あり

【下平市長】 ありがとうございます。それでは、お示ししました「志布志市教育大綱(案)」を志布志市教育大綱と定めます。

【下平市長】 以上で協議を終わります。

【和田教育長】 施政方針の中にも個性の伸長と家庭教育の充実を盛り込んであります。

○ その他

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第の「5 その他」についてですが、皆様方から協議事項以外に何かございますか。

○ 閉会

【黒石総務課長補佐】 それでは、皆さん御起立ください。

以上をもちまして、令和元年度第2回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。

午後1時49分 閉会

会議録署名

志布志市長

下平晴行

教育長

和田幸一郎

教育委員

松原治美

教育委員

島津陽亮

教育委員

津町千代子

教育委員

益田裕子